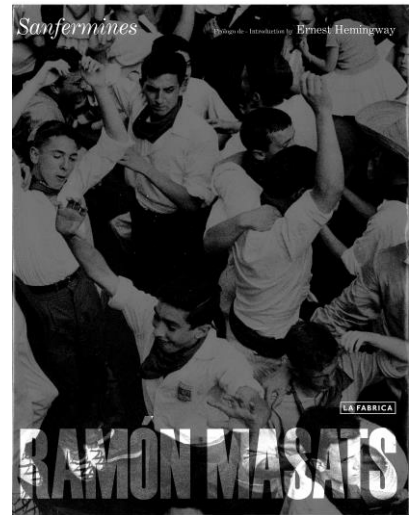




# 「奈良原一高のスペイン—約束の旅」展 関連イベント



上：ラモン・マサツ『Sanfermines』（初版1963年）

左：奈良原一高『スペイン 偉大なる午後』より

中央は奈良原一高本人（撮影：奈良原恵子）1963-65年頃 ©Ikko Narahara

## 特別トーク

# サン・フェルミン祭から見えるスペイン 奈良原一高とラモン・マサツ、ふたりの写真家の眼

2019年3月21日（木・祝）14時～16時 世田谷美術館講堂  
講師＝アルベルト・アナウ（「フォトエスパーニャ」代表）

進行＝塚田美紀（世田谷美術館学芸員）／参加無料、当日先着140名／当日13時より世田谷美術館エントランスで整理券配布／逐次通訳・手話通訳付／スペイン語話者には同時通訳対応／主催＝世田谷美術館

世田谷美術館「奈良原一高のスペイン—約束の旅」展（2019年11月23日～2020年1月26日開催予定）のイベントとして、アルベルト・アナウ氏による特別トークを開催します。

戦後日本を代表する写真家、奈良原一高（1931-）は1960年代前半の滞欧時、かねてより憧れていたスペイン各地を旅し、帰国後に『スペイン 偉大なる午後』（1969年）を発表します。その旅の始まりで若き奈良原が魅了され、一参加者として歓喜のうちに没入したのは、牛追い祭りとして知られる北部パンプローナのサン・フェルミン祭でした。

当館学芸員が奈良原の旅と視点について簡単に紹介したのち、50年代後半にサン・フェルミン祭をとらえたルポルタージュで知られるスペインの写真家ラモン・マサツ（Ramón Masats, 1931-）について、アナウ氏がお話します。日本での紹介が少ないマサツの作品をとおして、今までにない角度から奈良原の撮ったスペインを再考するための試みとなります。

## アルベルト・アナウ

1955年マドリッド生まれ。ジャーナリスト、出版人、スペインのアートシーン活性化の仕掛人。写真とヴィジュアル・アートの国際フェスティバル「フォトエスパーニャ」代表。雑誌『マタドール』を発行、闘牛雑誌『ミノタウロ』のエディター。経済誌『メルカード』のエディター及びディレクター、『エル・パイソ』紙の副ディレクター、『エル・ムンド・マガジン』のディレクターなど歴任。1994年にジャーナリズムを離れ「ラ・ファブリカ」を設立、多様なアート活動の創造性を高め、新しいメディアによる文化プロジェクトを推進中。出版部門のラ・ファブリカ・エディトリアルは、ラモン・マサツなどスペイン内外の写真家やアーティストの書籍700点以上を出版している。



本トークは、在日スペイン大使館のご後援により、著名かつ重要な日本人芸術家とスペインとの関係に着目する同大使館の企画「新南蛮文化シリーズ *Nuevo abanico nanban*」の一環として実施されます。

